

令和5年度 第3回高田区地域協議会 次 第

(会 議) 日時：令和5年6月26日(月) 午後6時30分
会場：福祉交流プラザ 第1会議室

- 1 開会
- 2 議題等の確認
- 3 議題
 - (1) 地域活性化の方向性について
 - (2) 令和5年度地域協議会の活動計画について
- 4 事務連絡
- 5 閉会

【次回協議会 7月18日(火) 午後6時30分～：福祉交流プラザ】
【次々回協議会 8月21日(月) 午後6時30分～：福祉交流プラザ】

「地域活性化の方向性」の作成に向けた高田区地域協議会学習会（R5. 6. 19 開催）

1 子育て・若者世代関連団体からいただいた意見一覧 ～口頭説明からの要旨～

子育て世代 子育て世帯の支援を行う団体

◆子育ての現状

- ・上越市の R4 年度の出生数は 1,000 人を下回った。子ども会の活動の継続が困難な町内会も出ている。
- ・全国的に核家族化が進み子育て世帯が少数派となった。かつて地縁・血縁で子どもの面倒を見ていた関係が失われ、不安や負担感からストレスを抱えやすくなっている

◆団体の取組み

- ・妊娠期～18 歳までのすべての子育て家庭を支援。子どもの幸せは周りの大人から
- ・低下した地域力を補うため、子育て応援ひろばなどの居場所づくり
- ・子育て中の人のためのワークライフバランス

◆今後の展望

- ・地域で子育てを支える、支え合う仕組みづくり：地域と子育て世帯をつなぐイベントの開催
- ・親子にとって地域の居場所の充実・活用

◆その他

- ・高田区にはオーレンプラザこどもセンターがある。保育園・幼稚園、小・中・高校まで、教育施設が充実している
- ・自衛隊や銀行など高田区には転勤による転入者が多い。子どもが乳幼児の頃は地域に一番なじめていない時期でもあることから、地域で受け入れる姿勢が求められる

若者世代 東京の IT 企業の上越拠点（高田区内）

◆高田区の課題

- ・IT の学びの機会が少ないのではないか

◆課題を踏まえた活性化に向けて取り組んでいること

- ・IT 教育支援として出前授業を実施。プログラミング体験授業、IT×キャリアを考える授業を行う。主に中学生・高校生向け。小学生向け体験講座もオフィスで開催している

◆今後の展望

- ・継続的な出前授業の実施
- ・授業内容のブラッシュアップ

◆その他

- ・東京から上越に出先の活動拠点を置いた理由は、北陸新幹線で東京と 2 時間で往来が可能であり、行政や企業による協力体制が充実していること。通信ネットワークが整備されており、テレワークと豊かな自然の中でワークライフバランスが両立できる
- ・人口減少に伴い IT 人材の不足も見込まれる。システムの開発は技術水準が高いことから、プログラミングの高等教育が必要

2 子育て・若者世代関連団体からの意見に対する質疑応答

<子育て関連団体>

質問1	市内でのこども食堂の取組み状況をどのようにとらえているか。
回答	こども食堂は貧困対策としての居場所づくりの側面があるのに対し、当団体が進める居場所づくりは子育てに起因するストレスの「予防」と位置づけている。
質問2	こども食堂の数は足りているか。
回答	一定数まで増加した以降、増えていないが、少子化なので数としては足りていると思う。数は問題ではなく、支援の質を高めることが大切。市では各中学校区に1つ、子育ての支援拠点として子育てひろばを設置している。近隣住民が「行って見たら」と子育て世帯の背中を押すことで利用者が増加し、地域支援や質の向上につながる。
質問3	上越市でも子どもの虐待問題はあるか。
回答	行政ではないので件数は把握していないが、あると承知している。
質問4	ボランティアなどスタッフは足りているか。
回答	現状は足りていない。60歳まで働く方が多い中、募集しても集まらない。

<若者世代関連団体>

質問1	市内におけるIT企業の進出は、将来的にどの程度の規模で定着するか。
回答	上越市は、本町や上越妙高駅のJM-DAWNを中心にIT企業の誘致を進めており、進出が進んでいる。どの程度の規模になるかは市の力の入れ方によると思う。
質問2	IT産業は若者が市外に流出せずに地元で働く受け皿に将来的になりえるか。
回答	企業によって在宅勤務／出社勤務の方針が異なるが、自社は在宅勤務を推奨している。
質問3	初めてプログラミングを学ぶ子どもたちの反応はどうか。
回答	子どもには簡単などころから教えるので楽しそうである。興味を持った子は、家でも学習に取り組んでいる。
質問4	IT技術者を養成する高等教育機関を大学等と連携し設置できるか。
回答	大学との連携については分かりかねるが、専門学校ならば可能性があるのではないかと。採用面では大卒が望ましい。
質問5	高田区に拠点を構え、地域とのつながりはできたか。
回答	地域の方からは声がけをいただいている。地域の団体がイベントを行う機会に合わせてオフィスの見学会などを行った。歴史ある町においても、IT企業や東京からの転入者に対する「壁」は感じていない。

「地域活性化の方向性」の作成に向けたグループワークについて（案）

学習会やこれまでの委員活動を通じて広げられた見聞を最大限に方向性に反映いただくため、まずは少人数でのグループワークにより地域活性化の方向性を検討します。

1 グループワーク班

- (1) 名簿順で3班に分け、各班に進行係のリーダーとして正副会長を配置しています。
- (2) 書記係（メモ程度を想定）を各グループ1名選任してください。

＜グループワーク班の構成案＞

1 班			2 班			3 班		
No.	委員名	備考	No.	委員名	備考	No.	委員名	備考
1	本城委員	リーダー	1	高野委員	リーダー	1	澁市委員	リーダー
2	飯塚委員		2	浦壁委員		2	小川委員	
3	北川委員		3	佐藤委員		3	杉本委員	
4	富田委員		4	西山委員		4	廣川委員	
5	松倉委員		5	宮崎委員		5	村田委員	
6	茂原委員		6	吉田委員		6	—	

2 グループワークの進め方

- (1) グループワークは2～3回を予定し、班ごとに3部屋に分かれて作業します。
- (2) 方向性の表題部分と構成要素のどちらを先に作成するかなど、各班のやりやすい方法で進めてください。
- (3) 基礎資料として、これまでの学習会4回分の振り返り資料をお配りします。
- (4) 各班が作成した方向性の案は各リーダーが発表し（発表時期は進捗状況により9月または10月の予定）、1本化に向けて全体協議に入ります。

高田区地域協議会 令和 5(2023)年度の活動計画 (案)
(6月26日の地域協議会用)

I. 令和 5 年 4~6 月に終了した事項

1. 「地域活性化の方向性」についての話し合い(4/24 に実施: これは、9/20、10/17、11/21、12/19、1/23、2/27、4/24 及び 5/22 の話し合いの継続)。
2. 「地域活性化の方向性」の作成に向けた高田区の商店街事業者等の方々との意見交換・学習会(4/17)。
3. 上記 4/17 の学習会のまとめと次回(6/19 予定)の学習会を含めた進め方についての話し合い(4/24、5/22)。
4. 令和 4 年度地域協議会の活動実績と令和 5 年度の活動計画(案)について(4/24、5/22)。
5. 「地域活性化の方向性」の他区の作成手順と高田区の作成工程表案の検討(5/22)。
6. 「地域活性化の方向性」の作成に向けた高田区の若者・子育て世代の方々との意見交換・学習会(6/19)。

II. 令和 5 年 6 月以降に予定されている活動

1. 上記 6/19 の学習会のまとめについての話し合い(6/26)。
2. 「地域活性化の方向性」と今後の進め方についての話し合い(6/26)。
3. 令和 5 年度の活動計画(案)について(6/26)。

III. 次に掲げる活動については、今後、地域協議会で引き続き検討する。

1. 今後実施すべき研修、視察、現地調査などの検討(例えば、防災などについて研修会)。
2. 他の区の地域協議会との意見交換・合同研修などの必要性、形式、実施時期などの検討。
3. 高田区の市民との意見交換の必要性、形式、実施時期などの検討。

注意: この計画については、次の点に注意してください。

1. 活動計画(案)は、最新の情報をもとに、協議会の会長・副会長が作成し、協議会に提出しています。委員の意見と協議会における話し合いに基づき、毎月更新します。
2. 活動のうち、既に終了したものと予定日が決まっているものは、月日を示しています。また、会長・副会長が、市の活動の中で高田区の市民の生活に大きな影響を与える可能性があると考えている事項は、予定日を示さずに掲げました。
3. 上記の計画(案)についての質問・意見は、**6月30日(金)**までに南部まちづくりセンター(上越市本町 3-2-26: 雁木通りプラザ内、電話:522-8831/Fax:522-8832、Mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp)まで、**文書**でお寄せください。